

生産者と力を合わせて健康な鶏に！
岡本尚子さんのある1日のお仕事

- 6:30 起床。
- 8:10 ~ 8:30 自宅から農場事務所へ。ミーティング、事務所清掃。
- 8:30 ~ 9:30 農場の飼育状況(死亡羽数、体重の推移等)の確認。書類作成など。
- 9:30 ~ 12:00 農場巡回。生産者と話しながら飼育状況や工事状況の現場確認、帳票類確認。
- 12:00 ~ 13:00 休憩。
- 13:00 ~ 16:00 農場巡回。
- 16:00 ~ 17:00 事務所にて書類作成など。担当者間で農場飼育状況の共有。
- 18:00 帰宅。



鶏の様子を確認する水島さん



鶏の健康管理について、生産者、農場担当者、獣医師が懇談

Profile

生産部 CS 管理室青森農場

おかもと なおこ
岡本 尚子 さん

埼玉県出身、27歳。東京海洋大学を卒業後、青森県青森市浅虫にある東北大学大学院浅虫海洋生物学教育研究センターへ。青森の自然に魅せられ、青森に住みたいと、卒業と同時にプライフーズ株式会社へ入社。半年間の研修を経て、おいらせ町にある青森農場で、鶏の飼育管理を行っている。八戸市在住。

獣医師

みずしま りょう
水島 亮 さん

新潟県出身、34歳。北里大学を卒業後、「獣医師として現場で働きたい」とプライフーズ株式会社へ入社。ブロイラー事業の生産部門で、専属の獣医師として働いている。八戸市に、妻と子どもの3人暮らし。

企業名 プライフーズ株式会社

- 所在地/青森県八戸市
- 事業内容/ブロイラー事業として、ブロイラーの生産・処理・加工食品の製造、販売。飼料原料・肥料の製造販売。このほか、ハイポー(豚肉)事業、食鳥処理機械事業を行う。
- 従業員数/3,527人 ■ 年間出荷羽数(出荷量)/3,300万羽



最も大切なのは、
コミュニケーション！

「一番大切なのは、生産者と農場担当者が、そして獣医師によるコミュニケーション」と異口同音に話す2人。
「生産者の方々の信頼関係を一番大事にしています。品質維持や飼育の成績向上には生産者の協力が不可欠なので、まずは生産者とよく話し、意見交換することを心がけています。ブロイラーの飼育は、うまくいくことばかりではない。鶏が死んでしまったり、大きく育たなかったときは、どこに問題があったのか、どうすれば良かったかと思うのが生産者と振り返り、相談し合いながら、生産者がいい方法を見つけるきっかけを作りたい」と打ち明ける岡本さん。



健康な雛が誕生！

水島さんも「現場の生産者と農場担当者に解剖の結果を公表します。そして鶏舎の気温や換気は足りているかなど率直に意見を交換。飼育の過程で、どの時期に何をすればいいか話し合うことが最も大切だと思います」
スーパーなどで自社製品を見かけたとき、思わず買ってしまおうという岡本さん。「私たちの仕事は、日常生活を当たり前に支えていることにやりがいを感じます。自然と生き物が相手なので思い通りにいかないことも多いけど、うまくいったときの達成感はこの仕事の最大の魅力です」
水島さんは「畜産物、特に肉は、人間が大好きな物の一つ。実際に鶏を飼育している現場は非常に重要で、五感を使って日々の変化に気を配っています。1日として同じ日がないのが畜産現場の素晴らしさ。何か異常があったときに鶏を調べて原因を究明し、次に役立てられたとき、やりがいを感じます」
マラソンが共通の趣味という2人。更なる品質向上に、切磋琢磨する姿がたくましかった。

畜産業で働く！

Work Style VOL.05

鶏肉をつくる



生産者、農場担当者、獣医師が、
心をひとつに、健康な鶏を育てる！

個々の仕事に責任を持ち
元氣な鶏の飼育を支援！

ヘルシーな食肉として人気の高いチキン。では、私たちが普段食べている鶏肉は、どうやって作られているかご存知だろうか。
ブロイラーと呼ばれる食肉用の鶏は、はじめに種鶏を育て、健康をチェックしながら卵を生ませる。その卵から生まれた雛は徹底した衛生管理のもと約50日間飼育され、処理、加工を経て店頭並び、私たちの食卓に届く。

青森県内で、ブロイラーの一貫生産を行っているプライフーズ株式会社で、岡本尚子さんは農家が育てている鶏の飼育状況の管理、水島亮さんは獣医師として鶏の病気の予防に力を注いでいる。
青森県内に直営・委託合わせて29農場を所有するプライフーズ。委

託農場では、会社が整備した鶏舎で農家の方々が鶏を大事に育てている。
「私の具体的な仕事は、ブロイラー部門の委託農場担当者として、県内にある9つの農場を巡回。鶏が、どうしたら大きく健康に育つか、生産者と情報を共有しながら農場での飼育状況を確認しています。また鶏舎の修繕や、機材購入の手配なども行います」と岡本さん。

一方、獣医師の水島さんは、農場をまわり、死亡した鶏の原因を究明するための解剖や、ワクチンプログラムが適正かどうか、鶏の定期的な採血や検査で確認。「もっと生産性を高め、おいしいブロイラーが育つよう指導しています」と話す。



鶏舎環境を確認する岡本さん